

**令和4年度 第1回こまきこども未来館講座運営会議
会議要旨**

日 時	令和4年6月27日（月）午後4時～午後5時
場 所	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ3階）
出 席 者	<p>【委員】4名（※敬称略） 玉置崇、山元千尋、采女隆一、余語美紀（2名欠席）</p> <p>【事務局】11名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、係員（6名）</p> <p>NPO 法人10人村（受託者）（5名）</p> <p>【傍聴者】なし</p>
会議資料	<p>次第</p> <p>資料1（令和3年度こまきこども未来館講座運営評価シート）</p> <p>資料2（こまきこども未来館体験ひろば2021）</p> <p>資料3（令和4年度体験ひろば実施計画）</p> <p>資料4（令和4年度体験ひろば年間活動計画）</p> <p>資料5（こまき少年少女発明クラブ通信No.1）</p> <p>資料6（こまきこども未来館ワークショップ便り）</p> <p>※資料2については委員にのみ配布（傍聴者は閲覧のみ）</p>
会議内容	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）令和3年度講座運営の評価について</p> <p>（2）令和4年度こまきこども未来館講座等開催事業について</p>
会議要旨	<p>1 <u>こども未来部長あいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまきこども未来館につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館などはあったが、昨年度1年間で約18万人という多くの方にご利用いただいた。 ・様々な講座や体験活動を実施する「体験ひろば」については、講座の中止や参加人数の制限など、思うような活動が行えない中、外部講師によるワークショップやスタッフによるワークショップなどで、延べ7,300人以上の児童に参加いただくなど、いつ来館してもいろいろな体験ができるよう、様々な工夫を行い、利用者のレポートに繋げている。 ・「体験ひろば」の昨年度の実績報告と、それに対する評価を行うが、それぞれの見地からご意見をいただき、より充実した講座等の実施につなげていけるよう委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。 <p>2 <u>議事</u></p> <p>（1）<u>令和3年度講座運営の評価について</u></p>
委員長	<p>各評価項目について、受託者の自己評価と発注者の評価に差異がある項目について、評価理由を確認し、加筆・修正することで最終的に当会議の評価としたい。</p>

	<p>○活動を通じた発達の増進 【発注者】 評価 B 小学生の活動については、道具の使い方から実践まで充実していると考えているが、工作道具の安全面から、対象年齢に幼児を含まないものが多い。幼児についても、それぞれの発育に応じた創作体験ができる場となることを期待して厳しく評価した。 【受託者】 評価 A 令和3年度の反省として、想定以上に幼児親子の来館が多く、結果として幼児向けの活動が不足していたと考えている。</p> <p>《質疑応答》 余語委員 児童館は、午前中と午後で来館する年齢層が大きく異なる。体験内容もそれに合わせて柔軟に対応していかないといけない。平日午前は幼児親子の来館しかないため、小学生対象のコンテンツだけ充実していても利用されない。今年度は前年度の反省を踏まえて、様々な幼児向けのコンテンツを充実させているため、それをもっと周知して、「また来たくなる」未来館となるといい。 玉置委員 これまでは、体験ひろばは幼児の利用はできなかったのか。それとも利用できるが周知できていなかったのか。 事務局 これまでは、対象となる体験が少なかったため、幼児が遊ぶ場ではないと通り過ぎてしまう親子もいたのは事実である。今年度は、配置換えを行い職員による呼びかけやエプロンシアターやパネルシアターなど幼児が集まりたくなる場づくりを心がけており、徐々に浸透してきていると感じている。 山元委員 兄弟で利用する際、上の小学生の子はハサミを使って体験できるが、下の幼児はハサミが使えず体験できないということもあったので、今回の評価にもあるように、幼児でも発育に応じて、ハサミが使えなくても、「ちぎる」などで体験できるような場となると親としてはうれしい。</p>
	<p>○障がいの有無や国籍の違いを越えて児童がお互いの理解を深める取り組み 【発注者】 評価 A 交流・体験 CAMP での外国人サポーターによるブース出展も多く、子ども達は言葉や文化の違いなど関係なく積極的に交流している様子が見られる。多文化交流という観点からは十分に評価できると考える。 【受託者】 評価 B 交流・体験 CAMP には外国籍のサポーターがブース出展などを積極的に実施してもらっているが、サポーター以外にも関連団体などを集め、外国籍の方と日本の方が一緒に参加する「多文化交流サンデー」という取組みについては、周知が不足、参加者が集まらなかったため、「B」という評価とした。</p> <p>《質疑応答》 玉置委員 国際交流協会など市で同じような取組みは行っているのか。交流・体験 CAMP のような取組みは、小牧市ではこども未来館だけの取組みか。 事務局 ボランティアや職員と一緒に活動する行事は国際交流協会でも行っているが、交流・体験 CAMP のように、外国籍の方が自分で内容を考えて、ブースを展開するような取組みはここでしか行っていないと思う。</p>

<p>采女委員</p> <p>事務局</p>	<p>○児童が主体的かつ創造的に活動できる環境づくり</p> <p>【受託者】評価 A</p> <p>令和3年度は、まずは多くの児童に講座を体験してほしいこと、また、どこにニーズがあるのかを把握するためにも多くの種類の講座を展開したかったことから、単発講座をとにかく多く展開してきた。その中でも、いつでも体験できるコミュニケーターワークショップでは、「今回はここが失敗したから、今回はここに注意してやり直す」や「この工作は前回体験したから、私がやり方を教えてあげる」など、継続して体験できるからこそそのエピソードがあったため、高い評価とした。</p> <p>【発注者】評価 B</p> <p>令和3年度は多彩な講座を展開してもらったが、評価項目の「主体的かつ創造的」な活動に繋げるには、コミュニケーターワークショップのエピソードにもあるように、時間をかけて複数回講座を展開することや、徐々にステップアップしていく講座などの展開も必要だと考えるため、期待をこめて厳しい評価とした。</p> <p>《質疑応答》</p> <p>昨年度、多彩な講座を展開することで子ども達のニーズをある程度把握し、ニーズの高い内容などを連続講座でじっくり展開するなどを考えていると思うが、直接子ども達がやってみたい事を意見できて、それが反映される仕組みが作られれば、自分たちの希望が叶えられる場としてどんどん主体的に取り組んでくれるのではないかと。</p> <p>自由記述式のミニアンケートや、体験ひろば内のリクエストボードに付箋で自分のやりたい事を伝えられる環境を整備している。子ども達はこれまでの経験をもとに「プラバンが楽しかったからまたやりたい」というようなリクエストが多いが、そこから同じプラバン作りでも「これはやったことないけどやれたらいいな。こんなことが出来たらやってみたい！」と膨らませられるような展開ができるといいと考えている。</p>
<p>山元委員</p> <p>余語委員</p>	<p>○保護者同士の交流環境づくり</p> <p>【受託者】評価 C</p> <p>令和3年度は親子講座をほとんど実施していない。親子同士が交流を深める機会創出は今後の課題と考えており低い評価となった。</p> <p>【発注者】評価 B</p> <p>直接の親子講座の開催はないが、子が講座受講するのを待っている親に声かけをし、工作準備の協力を依頼するなど、様々な形で親同士がつながる機会を設けようとする試みが見られた。</p> <p>《質疑応答》</p> <p>実際に児童館で一緒に活動する中で、様々な悩みを相談できるママ友ができた。地元出身でない親にとっては、児童館などで、近所の親同士や子の年齢の近い親同士が交流する機会があるのはうれしい。</p> <p>親子講座への参加は、子の様子を見ながら親同士が交流できるため、共通話題で交流しやすい。最近では親同士の関係が希薄になってきているので、ど</p>

	<p>んどん展開して行ってほしい。</p> <p><u>(2) 令和4年度こまきこども未来館講座等開催事業について</u> <u>※事務局より資料3・4の説明</u></p> <p>《質疑応答》</p> <p>山元委員 こども未来館は良く利用するが、こんなに多くの体験活動があるとは知らなかった。令和4年度の計画でも面白そうなものがあるので参加してみたいと思う。</p> <p>余語委員 山元委員の言うように、まだまだ施設全体としての周知不足は否めない。講座運営の受託者だけでなく、市とも連携しながら利用者を楽しんでもらえるよう進めていきたい。</p> <p>采女委員 これだけの多彩な活動があることに驚きと関心を抱いている。よく利用する児童は近隣の児童が多いか。</p> <p>事務局 小牧小、小牧原小、米野小、小牧中、応時中の近隣小中学校が多い。</p> <p>采女委員 地理的なものを越えて多くの子達が体験できるよう、小中学生への周知のお手伝いをしていきたい。</p> <p>事務局 よろしくお願ひします。</p> <p>玉置委員 施設が大きいため、様々な職員と一緒に働いているが、組織としてみんなが思いを一緒にすることが大切。組織が上手くいっていないと子ども達への関わりにも悪い影響が出てしまう。職員でコミュニケーションをとりながら思いを共有していくことを大切に、せっかくの良い事業を実現できるよう頑張っしてほしい。</p> <p>【議事（1）（2）⇒事務局案で承認】</p>
--	---